

お忙しくても、約 2 分間で読めます

ハートフル・ワード (心からの言葉)

山内公認会計士事務所

TEL 098-868-6895

FAX 098-863-1495

経営者への活きた言葉

ドラッカーの予言 (P. F. ドラッカー)

- 100 年以上前、大学という仕組みが日本に誕生したときは、エリート大学は日本にとって非常に大きな強みだった。卒業生は一流企業や官僚を担うキャリアが約束された。賢い若い人たちが大学に行き、彼らが将来エリートになって日本を背負うことを念頭に大学教育はつくられたのだ。けれども現代ではそれが日本の弱みになった。その理由は最も賢い人が最も優れたエリート大学に入るのではなく、最もカネ持ちの家の人がエリート大学に行く時代になったからだ。
- 東大や慶応大学に入った学生の家族の所得層に関する統計を私は見た。富裕層の子どもたちはカネをかけて塾に通い、エリート大学に入っている。結局富裕層しかチャンスはない。それがキャリアにつながってしまうとしたら、エリート層がずっと支配して、カネがない人にはチャンスがないということになる。これではまずい。早急に高等教育改革をする必要がある。
- 上記 1 と 2 のドラッカーの発言は 1999 年であるが、あれから 10 年余年。日本はまさに貧困問題が社会問題化し、所得格差が広がり、貧困のために大学だけでなく高校にも通えない子どもたちが出てきている。所得の格差が教育の格差と結び付き、人生に持てるチャンスになっている。ドラッカーが危惧した通りとなった。
(参考:「週刊ダイヤモンド」2011 年 6 月 18 日号)

ワンポイント経営アドバイス

本田宗一郎語録

- 作ることに野心があった。そこで、自動車の中で一番難しいピストンリングを選んで、作ることにしたのです。
- 初めからやるなら「世界一のオートバイでないダメだ」と思っていましたから、マッカーサーを頭に米国人や英国人が大勢、日本に来ている時代に、日本だけでうまくやったらダメと感じていた。
- 昔から人間は考える動物だと言われてきた。この考える、知恵を絞るということが、実はベンチャーの神髄なのです。
- 経営者の大切な仕事は、各社員が生き生きと働けるような、好きな仕事につけてやることでしょう。これは経営の腕の見せどころです。

(参考:「日経トップリーダー」: 2011 年 7 月号)

人事・労務について

被災地の人々を良いお手本に

安藤 忠雄 (建築家)

- 3 月 11 日の東日本大震災は、物質的豊かさを追いつけてきた「戦後日本」に終止符を打っただけでなく、人類の未来をも変えた。今回、私が被災地で感じたのは、東北には、まだ「家族」が残っているということだった。今の日本には家族や地域社会を見渡しながら、責任感を持って行動するような「確固たる固」をもった人間は極めて少ないが、一方で都会では自分のことしか考えない若者が増え、行き過ぎた個人主義が蔓延している。
- そんななか、東北の農村、漁村では、家族経営を基盤にしていることもあり、古くからの日本の家族の姿がかるうじて残っていた。だからこそ、このような厳しい災害の中でも、秩序を保ち、精神を比較的平静に保つことができたのだろう。これからの国づくりを東北の被災地を手本にして行かねばならないのではないかな。

(参考:「文藝春秋」2011 年 9 月特別号)

古典に学ぶ

優れたものの魂を真似よ

「真似はその形を真似ずして、その心を真似よ」

現代の言葉で言うと、「何か真似したいと思うのであれば、その形だけを真似するのではなく、その心をも真似ることだ」。上辺だけをブランド品で飾っているのでは、ショーウィンドウのマネキンと変わりはありません。それより、あなたが素晴らしいと思うそのブランドの理念や志を身につけるほうがはるかにスマートです。

(参考: 渋澤健「渋沢栄一 100 の金言」: 日経ビジネス人文庫)